

丸亀市市民交流活動センター(マルタス)の運営について

1. 丸亀市市民交流活動センター管理運営計画 基本方針

センターでは、施設の設置目的、目指す姿を実現するため、以下の視点を基本として管理運営を行っています。

○誰にも心地の良い居場所をつくります

センターは、様々な境遇の人や目的を持った人が集まる「みんなの施設」として、ユニバーサルデザインに配慮するとともに、館内の備品や表示、色彩、ルールなどの最適化を図り、利用者の目的に応じた心地良い居場所をつくります。

○市民の役割・出番をつくります

センターの各フロアに備えた機能や余裕スペースを活かして、市民自らの企画・運営による事業を推進し、より多くの市民が活躍できる場を設けることにより、市民と行政が一緒に育てる施設を目指します。

○ひとを感じる空間をつくります

センターは、子ども・学生・大人などの多様な世代や職種の人が集まり、出会い、交流する施設として、自然にひとの存在や活動が視界に入り、お互いが刺激し、共鳴しあうことのできる「見る・見られる」空間をつくります。

○多様な主体をつなぎます

センターは、市民をはじめ、NPOやコミュニティ、企業、大学などの様々なまちづくりの主体が活躍する舞台となり、そしてそれらが有機的につながることで、さらに交流の輪が広がる施設となることを目指します。

○市民活動の中核的機能を担います

センターは「協創のまちづくりの拠点」となり、市内各所で展開される様々な市民活動や地域づくりのさらなる発展につながるように、「人づくり」や「仕組みづくり」において、その中核的機能を担う施設となることを目指します。

2. 令和4年度市民交流活動センター（マルタス）の状況
（令和5年1月末現在）

◆「交流」…活動や情報の交流

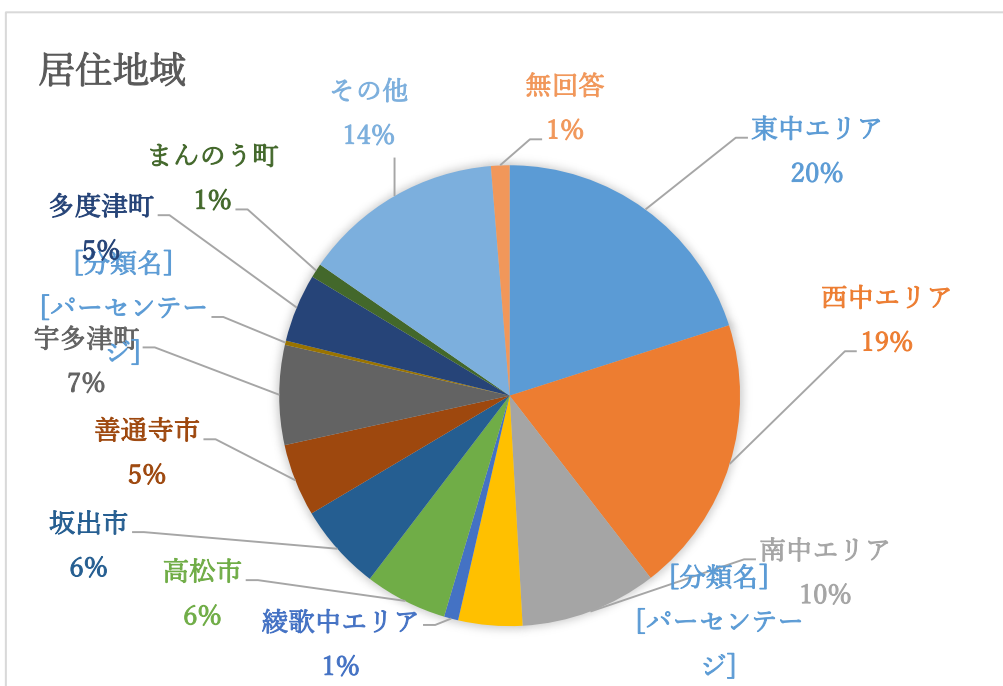
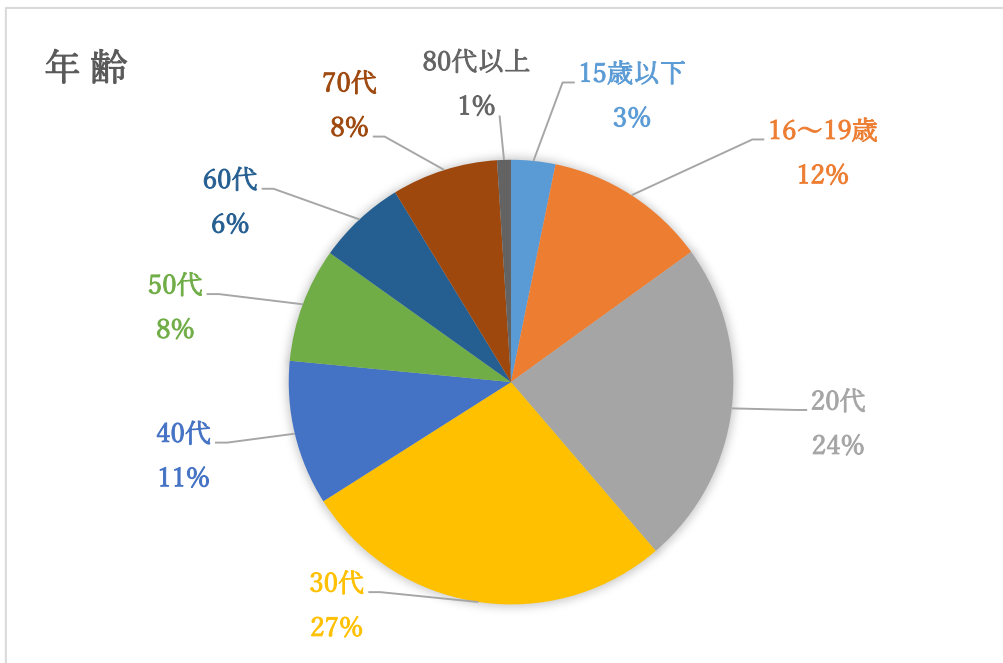
	来館者数（人）	市民活動参加者数(人)	HP アクセス数 (※セッション数)
令和4年4月	53,755	499	12,988
5月	66,532	514	14,250
6月	67,224	738	15,346
7月	67,651	685	16,821
8月	66,641	446	15,581
9月	54,924	586	15,292
10月	69,649	695	15,580
11月	68,240	1,316	15,481
12月	60,926	1,122	14,944
令和5年1月	65,115	597	16,058
合計	<u>640,567</u>	<u>7,198</u>	<u>152,341</u>
令和3年度	575,003	4,532	161,774

※セッション数…HPへ訪問した回数。複数のページを見ても1回とカウント

◆「活動」…市民活動支援

	市民活動登録（件）	市民活動開催（件）	市民活動相談（件）
令和4年4月	94	47	129
5月	67	53	85
6月	55	50	41
7月	7	66	63
8月	3	51	56
9月	7	55	67
10月	4	66	38
11月	10	69	38
12月	5	76	64
令和5年1月	4	63	37
合計	<u>256</u>	<u>596</u>	<u>618</u>
令和3年度	216	230	1,129

◆来館者アンケートからみる属性（R4年3月実施 n=313）



◆HP アクセス元(R5 年 1 月末現在)

＜地域別＞	丸亀	約 20%	} 基地局の影響により 経由地で集約されます
	香川県内	約 15%	
	東京	約 17～19%	
	大阪	約 8%	

◆支援カウンターでの相談内容(R5 年 1 月末現在)

内容の種類	件数
イベント企画に関する相談	269
市民活動登録に関する説明	152
市民活動登録申請書の受付・確認	57
運営に関する相談	52
展示企画に関する相談	44
チラシ配架に関する相談	12
その他の内容の相談	32
合 計	618

◆専門家による無料相談 (R5 年 1 月末)

内 容	人 数
①税理士相談	19
②行政書士相談	3
③弁理士相談	4
④よろず支援拠点	380
合 計	406

- ・①～③は各団体と連携し、毎月 1 回定期的に開催（マルタスが窓口）
- ・④「よろず支援拠点」は国が設置した無料の経営相談所。公益財団法人かがわ支援財団が実施しており「中西讃マルタス常設サテライト」として活用。
相談内容は事業計画や経営知識、情報発信に関することなど。

◆市民活動登録団体への活動支援

活動の幅が広がる提案

市民活動団体が活動を続けていくためには、収益事業やボランティアによる活動支援が不可欠です。マルタスでは、団体に関わっている社員等のスキルを活かした収益事業の提案や、マルタス独自のつながりを活かしたボランティアマッチングを行いました。

また、事業の告知方法や活動経費削減に関する助言、活動継続のサポートも行っています。

NPO 法人未来 ISSEY の例



MARU っとプレゼン (7/24~8/28)



長期入院中の子ども達と付き添いのご家族にエールバックを贈ろう！ボランティアワークショップ (8/1・12/5)



ひろえば街が好きになる運動 (毎月開催)



◆様々な団体との協働

市民活動団体が持つ機動力と、マルタスが持つ広報力や組織力が組み合わせることにより、より効果的な事業を開催することができました。

知事選挙前には NPO 法人ドットジェイビーや市の選挙管理委員会と一緒に若年層の投票率向上に向けたトークイベントを開催。瀬戸芸期間には市文化課と連携し、マルタスを本島サテライト会場として作品の展示やアーティストのトークイベントを開催するなど、市の施策に関連した企画を行いました。

また、県内で地域の課題解決に取り組んでいる「香川大学瀬戸内地域活性化プロジェクト」と共催で「Kagawa Expo2022in MARUTASU」を開催し、各地域で活動し発見した魅力を発信するイベントを開催しました。このほか、多くの主体と連携することができました。

丸亀まちあかり 2022 (10/8)



U25 と考えるセンキョとジブン(8/13)



瀬戸芸本島サテライト会場
(9/29~11/6)



楽器を作って音に触れよう
(10/17 丸亀こどもデー)



KagawaExpo2022 in MARUTASU (香川大学地域活性化プロジェクト) 11/19~20



中学生の職場体験(10~11月)

社協との共催(12/3)



◆地元企業との連携

四国内の企業が中心となり地域活性化に取り組む連合体である「四国家サポーターズクラブ」に今年度からマルタスも参画しました。

丸亀にぎわいプロジェクトの一環で、地元高校生と企業や行政のトップが丸亀市の魅力について考える座談会をマルタスで開催しました。(10/15)



◆マルタス独自のプロジェクト

丸亀まるっと！ボードゲーム化プロジェクト

丸亀の「まち」を舞台に、若い世代の方々と一緒にボードゲームを制作しました。

制作については、マルタスがハブとなり、ボードゲームクリエイター・学生・地域の方をつなぎ、様々な視点でボードゲームに丸亀の要素を加え、ボードゲームならではの「面白さ」「楽しさ」を追求しながら、「まち」への関心を高めていくことを目的にしました。

まちあるきインタビュー（4月）



学校で企画発表会（6月）



制作・テストプレイを繰り返し調整



完成（11月）



今後は、ボードゲームをマルタスのHPから無料でダウンロードできるようにし、イベントを開催して普及を進めます。